YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	**TS**	**学部・学科**	**国際教養学部 国際教養学科**
学 年	**3 年**	**派遣国**	**カナダ**
派遣大学	**メモリアル大学**		
期 間	**2025 年　9 月　9 日～　2026 年　4 月　22 日**		

【生活編】

1．滞在先

滞在形態	学内の学生寮 ／ 学外の学生寮 ／ アパート ／ その他（　　）					
部屋	個室 ／ 2 人部屋 ／ 3 人部屋 ／ その他（　　）					
設備	*共同＝◎　部屋にあるもの＝○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約（　71,000　）円　*1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	（　徒歩　）で、約（ 3 ）分　*大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2．日常生活

（1）1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	87,000 円	大学の寮のミールプラン それ以外の出費はほぼなし
学用品購入費	1,000 円	教科書の購入
交通費	2,500 円	バス 800 円 タクシー1,700 円
交際費	25,000 円	ロードトリップ 10,000 円 映画、外食などの娯楽 15,000 円
その他	79,000 円	寮費 66,000 円 現地大学加入保険 7,000 円 通信費 5,300 円 日用品購入 1,000 円
合計	**194,500 円**	*概算で記録してください。

（2）治安状況・危険地域など

比較的治安は安定していて、特記すべき危険地域などはありません。

3．海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 ／ その他（　　）		
加入期間	（　8　）ヶ月間	保険料	（　　82,100　　）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	GuardMe		
加入期間	（　8　）ヶ月間	保険料	（　　75,000　　）円

4．滞在都市についての情報

滞在都市／町（　　**セントジョンズ**　　）

・物価：ものによりますが、日本の 1.5～2 倍ほどです。
　　ウォールマート等では、日用品・食品共に日本で買うよりも安く手に入ることも多々あります。また Dollarama などのドーラ―ショップも手ごろな価格で商品を購入することができます。その他の小売店やコンビニ、外食やその他サービスについては日本の 2 倍程かそれ以上の物価になります。
・言語：英語
・町の雰囲気：かなり落ち着いていて穏やかです
・モールなどのアクセス：バス一本でアクセス可能です
・レク：ハイキング、スキー、サバイバルゲーム、映画、クラブ、アーケード、
・自然：非常に豊か。たくさんのトレイルがあるので、ハイキングに飽きることは
　　ありません
・外国人割合：非常に高い

【学業編】

1．大学情報

大学	メモリアル大学	所在地	カナダ・セントジョンズ
最寄空港	セントジョンズ国際空港	空港からの距離	5km
空港⇔大学	（　　タクシーで 10 分程度　　）　*移動手段		
学生数	17,000 人程度	留学生数	4,000 人程度
学部	Faculty of Business Administration Faculty of Education Faculty of Engineering and Applied Science Faculty of Humanities and Social Sciences Faculty of Medicine Faculty of Nursing Faculty of Science Marine Institute School of Arctic and Subarctic Studies School of Graduate Studies School of Human Kinetics and Recreation School of Music School of Pharmacy School of Social Work *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Faculty of Humanities and Social Sciences *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

２．週間スケジュール

①（　　9　　)月～(　　12　　)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	RELS 2610 Introduction to Religious Ethics		RELS 2610 Introduction to Religious Ethics		RELS 2610 Introduction to Religious Ethics
午後	RELS 1000 The Religions of the World	ANTH 1031 Introduction to Anthropology	RELS 1000 The Religions of the World	ANTH 1031 Introduction to Anthropology	RELS 1000 The Religions of the World

②（　　1　　)月～(　　4　　)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	FOLK 1000 Introduction to Folklore SOCI 1000 Introduction to Sociology		FOLK 1000 Introduction to Folklore SOCI 1000 Introduction to Sociology		FOLK 1000 Introduction to Folklore SOCI 1000 Introduction to Sociology
午後	RELS 1001 Critical Reading and Writing: Religions and Violence		RELS 1001 Critical Reading and Writing: Religions and Violence		

3．履修内容

科目	Introduction to Anthropology		
履修期間	2025 年 9 月 9 日～2025 年 12 月 16 日	単位数	3
授業内容／形態	講義中心 人類学を幅広く学ぶ科目。扱うテーマは宗教、経済、政治など多岐にわたる		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	文化人類学	
	単位数	2	
	担当教員	井上　淳生	

科目	The Religions of the World		
履修期間	2025 年 9 月 9 日～2025 年 12 月 16 日	単位数	3
授業内容／形態	講義中心 世界の主要宗教の教えや慣習について学習する。キリスト教、ユダヤ教、仏教、イスラム教など		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	宗教論	
	単位数	2	
	担当教員	吉村　均	

科目	Introduction to Religious Ethics		
履修期間	2025 年 9 月 9 日～2025 年 12 月 16 日	単位数	3
授業内容／形態	講義中心 倫理学を宗教やその他の哲学的枠組みで学ぶ。主要宗教の倫理、義務論や功利主義といった理論を、安楽死や死刑制度など現代社会に当てはめて議論する。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	現代倫理学	
	単位数	2	
	担当教員	有馬　斉	

科目	Introduction to Sociology		
履修期間	2026 年 1 月 6 日～2026 年 4 月 22 日	単位数	3
授業内容／形態	講義中心 社会学で扱われるテーマについて幅広く学ぶ授業。社会学者や社会学の理論に触れながら、現代社会の問題について議論する		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	社会学	
	単位数	2	
	担当教員	磯　直樹	

科目	Critical Reading and Writing: Religion and Violence		
履修期間	2026 年 1 月 6 日～2026 年 4 月 22 日	単位数	3
授業内容／形態	講義中心 宗教と暴力に関連するテーマについての論文を読み、エッセイを書き、議論する科目。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Introduction to Folklore		
履修期間	2026 年 1 月 6 日～2026 年 4 月 22 日	単位数	3
授業内容／形態	講義中心 民間伝承についての研究手法や人々の生活への影響について学ぶ。 大学の資料室（アーカイブ）を用いたリサーチなどの活動も含む。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目	特講（国際教養学部留学科目）	
	単位数	2	
	担当教員		

＜総括＞

（1）全体的な感想　　*留学生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

8 か月のカナダ留学は、単なる言語学習を超えた非常に貴重な文化体験で、学習面においてもその他の面においても。非常に大きな学びを得ることができました。

学習面においては、現地学生共に宗教学を学び、その過程で英語での大学レベルのアカデミックペーパーの書き方を習得しました。私は横浜市立大学ではグローバル政治論を専攻していますが、政治に大きく関係している宗教というテーマについては横浜市立で開講されている科目が少なく深い理解が得られていない状態でした。そんな中、留学先の大学で世界の宗教の教えや歴史、また宗教暴力というテーマについて深く学びました。授業によっては毎週 1 つの指定された論文を読み、エッセイを書くというような量的にも質的にも簡単ではない課題をこなしながら、そもそも暴力の定義とはなんなのか、宗教がいかにして暴力を助長する可能性を秘めているのかを学ぶことができました。また、文化的背景や信仰している宗教など、多様な生徒たちがいる環境で講義に参加できたこともカナダ留学ならではだと感じました。期末レポートも、指定された引用形式に沿いながら、きちんと構成だったものを仕上げ、丁寧なフィードバックを受けることができ、課題であった英語のアカデミックライティング力も伸ばすことができたと感じています。

学習面以外にも、多文化環境で過ごした 8 か月間は私の視野を広くしてくれました。そのうちの一つがキャリアに対する考え方です。日本では 4 年で大学を卒業し、そのあと就職するというのが「スタンダード」な進路であると感じていて、実際私もその進路を特に疑うこともなく進むのだろうと思っていました。しかし、様々な国からカナダに留学しに来ている人や、大学で数年間過ごしているのに専攻が決まっていない人、どこの国の大学院に行くか迷っている人との関わりを通して、「自分の本当にやりたいこと」を見極めることの大切さを学びました。横浜市立大学を卒業したあと、自分のスキルを活かせる場所、やりたいことができる場所は日本なのかその他の国なのか、大学院に行くべきか就職するべきか、当たり前の問いのようですが、その選択肢に幅を持たせてくれたきっかけは間違いなく今回の留学でした。

その他の活動としては、学内の仕事でメモリアル大学の留学制度を現地学生に紹介するポップアップやイベントの企画を行いました。今まで日本の良さを広める、日本留学を勧めることをしたことはあっても、中立的な立場で交換留学や短期留学を含めたいろいろな制度を現地学生に紹介することはなかったので非常に貴重な経験ができたと同時に、一方的な話ではない「対話」の難しさを感じました。

また学外の子守のボランティアにも参加し、子どもとの関わり方や声掛けの仕方も学ぶことができました。

このように、私は 8 か月の留学で様々な面において大きな学びを得ることができました。

（2）今後の展望　　*この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今後の短期的な目標としては、カナダの大学で学んだ宗教学の内容を、自身の興味分野であるグローバル政治論の議論に組みこむことです。宗教学では、なぜ宗教が人々を動員するのに強力な手段となるかを理解することができたため、これを含めて政治学を議論すれば、より深い研究が可能になると考えています。
長期的な目標は、私が将来中学校の英語教師になった際、今回の留学で得た「相互理解」の大切さを伝えていくことです。英語という言語習得に限らず、彼らが海外の人々とコミュニケーションをするときに、異なる文化を持つ人に対してでも相手を知ろうとして「相互理解」を深める大切さを教えたいと考えています。留学経験を通し、その国の文化や実態をするにはメディアからの情報では不十分であることを身をもって経験しました。生徒たちにも自分の目で見聞きする大切さを伝え、またそういった経験を提供できたらと思います。
中学校は、偏差値などで区分される高校とは違い、異なる学力・趣味・背景・将来の夢などを持った多様な生徒が交差する場所だと思います。そこで「相互理解」から対立ではなく「対話」を生み出す環境を創り、将来的に世界と日本を繋ぐ人を育てる一翼を担いたいと思っています。

（3）後輩へのアドバイス　*留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

交換留学の大きな利点は、焦点が「言語習得」を目的とした語学留学ではなく、自身の今日民分野・専攻を深めることができる「学部留学」であることだと思います。留学先大学の学部授業では、カナダの場合でも英語がネイティブか、それに等しい英語力を持つ生徒たちのみしかいない授業環境になります。ここでは自分自身も当然に英語が話せる独立した人として扱われるので、英語を学習中で同じ英語力を持っている人と授業を受けるよりも、強制的に英語環境で揉まれることになります。そんな環境のなかで、自身の興味分野について読み、書き、聞き、話すという経験は、英語を学習するというよりも、英語を使って世界を切り開くという体験をすることができます。
長期にいることで大学という「コミュニティに属して」生活できるのもこのプログラムの強みだと思います。2 学期まるまる現地大学で過ごすことができるので、現地の友人を作り、ボランティアに参加し、サークルに参加し、様々なコミュニティに属しながら生活することができます。その大学の一時的な「ゲスト」ではなく、「内部の人」として活動できるのは、自発性や責任感など、英語力以外の部分も自己成長させる非常に価値のある体験だと考えています。
このプログラムに参加するメリットは書ききれないですが、もし参加に迷っている人がいたらぜひ挑戦してみてほしいと思います。行く前では予想もしていなかった出会いや成長の機会がたくさん待っているはずです。